

特定非営利活動法人

日本小児循環器学会 理事会 (2015.8—2017.7)

2016 年度第 1 回理事会 議事録

日時：2016 年 9 月 22 日(木祝) 16:00～19:00

場所：DAYS 赤坂見附 4A 会議室

【理事会構成員】理事総数：20 名、出席理事 19 名

理事長：安河内聡

副理事長：角秀秋

理事：市川肇、市田蒔子、岩本眞理、小山耕太郎、賀藤均、鎌田政博、坂本喜三郎、白石公、鈴木孝明、住友直方、土井庄三郎、富田英、野村裕一、檜垣高史(欠席・委任状あり)、朴仁三、三谷義英、山岸敬幸、山岸正明

監事：佐地勉、佐野俊二、中西敏雄

庶務：深澤隆治、藤原優子

【議事の経過の概要および議決の結果】

1. 開会

定刻に安河内理事長が議長となり、定款第 27 条 2 項の定足数を満たしている旨の報告がなされ、本理事会の開会が宣言された。続いて議長から議事録署名人として土井庄三郎理事、富田英理事が指名され、全会一致で承認された。

2. 理事長報告

1) NPO 法人定款変更申請 (東京都)

定款変更の申請書(第 2 条;事務所の所在地変更、第 6 条;会員種別の変更)を 7 月に提出した。審査には数か月かかる見込みである。

2) NPO 法人税納付報告

2012 年からの 4 年間分の NPO 法人税 40 万円を納付した。

3) 学会ホームページリニューアル(平成 28 年 9 月 1 日付)

掲載を希望する場合は広報に連絡する。英文ページの整備も進める。

4) カンデサルタン実態調査進捗状況

厚労省から日本小児循環器学会と日本小児腎臓病学会共同で実態調査の実施を行うよう指示が有り、東邦大での倫理審査が終了し、9 月 21 日付で武田薬品工業株式会社と CTD(データセンター)と契約書をかわした。

5) 成人移行医療横断的検討会議(日本循環器学会)

日本循環器学会の学術委員会下の会議として第 2 回合同会議を 9 月 22 日に行った。移

行支援のステートメントを出す予定である。本学会としては患者の自立教育、成人領域は診療マップ連携など受け入れのための連携システム構築を担当することとなっている。

6) HBD children-Working group について

小児循環器領域における Device Lag を解消するために、従来の成人領域で行われていた厚労省(PMDA)・企業・学会協同のHBD(Harmonization by doing)に加えHBD for childrenを、日本小児循環器学会、JPIC 学会と協同で設立することになった。厚労省(PMDA)の支援の下、日米合同で小児循環器領域の早期導入デバイスの選定、デバイスラグの短縮を協議し、FDAとの交渉も行う予定。日本小児循環器学会(安河内)、JPIC 学会(富田、杉山)に加え、外科系委員として坂本喜三郎先生が参加。2017年のJPIC 学会学術集会時にHBDのセッションを設ける。

7) 要望書の提出:

コンクレストバルーンカテーテル安定供給に対する要望書(厚生労働大臣宛)をJPIC学会と合同で提出した。

8) 医療安全アンケート(小児科学会):

高難度新規医療技術導入に関するアンケートに日本小児科学会分科会として回答した。

3. 審議事項

<理事長> 安河内理事長

1) 医師主導治験への推薦承認(大阪大学澤教授:脱細胞化ヒト肺動脈弁 Esprit PV)

➤ 全会一致で承認された。

2) 第53回学術集会以後の学術集会会長理事会推薦者選定方法について

➤ 次回の理事会にて2019年および2020年の2年分の会長を選出することが全会一致で承認された。複数名立候補が出た場合は、プレゼンテーション後に理事会推薦者を決定する。

<総務委員会> 富田理事

1) 理事選任・理事選挙に関する定款施行細則の改定について

➤ 選挙管理委員は4名から5名にすること、女性枠・外科枠については12名のうち上位女性1名、外科3名を当選とし、得票数は非公開とする案が全会一致で承認された。

*名誉会員・特別会員に関する定款施行細則の改定について

➤ 現職理事・評議員については任期終了後の総会で推戴することを明記するため、施行細則に記載することが全会一致で承認された。

2) 学術集会への補助金の取り扱い

➤ 学会からの補助金を現行の100万円から200万円にすること、また、その取扱いについて明文化することが全会一致で承認された。

- 3) 学術集会運営マニュアル案について
プログラム委員会以外は修正済み。
*次年度のプログラム委員会の早期開催(4, 7月)の要望が有り検討することになった。
*宮田賞受賞の会場の整備と出席者について再検討することになった。
*COI : 学術集会の演題抄録の内 48 演題で倫理的問題が指摘された。倫理委員会で演題抄録に関する倫理指針について検討することになった。(担当: 倫理委員会)
*会場費・謝金等の負担:
宮田賞: 会場費支払いは規約に従い学会の支払いを学術集会に修正する。
医療安全セミナー謝金: 学会が支払うことが確認された。
教育セミナー: 学術集会で会場費を負担する。
- 4) 学術集会コンベンション会社入札制度について
▶ 2019 年以後は公募で行うことが全会一致で承認された。
公募参入会社から全国で対応可能な企業を 2 社選択し、最終選考のためのプレゼンを行う。1 期 2 年で原則 2 期、担当者固定を原則とする。意見を持ち帰り、10 月初旬まで方向性を決定したい。
- 5) 日本小児循環器学会として後援・共催する場合の基準案について
▶ 全会一致で承認された。

<財務> 山岸(敬) 理事

- 1) 財務報告/学会予算立案に関する整備
新しいタイムコース(申請期、検討期)に沿って、次年度の事業ベースで学会予算策定をする。方針申請期に各委員会は活動計画に基づいた予算を申請し、次に検討期で理事長主導のもと総務、財務でヒアリングを行い 3 月中旬までに決定、7 月の理事会・総会で承認を得るという手順となった。
▶ 全会一致で承認された。

<学術委員会> 小山理事

- 1) 研究委員会制度見直しについて
研究委員会設置規則の Ver. 6 を新たに提示、将来的には規則と細則に分けて整理する。課題 A は「他の機構から財政的支援を受けてないもの、当学会からの助成期間中は他の助成金の申請はできない」との文言を追記する。本年は 10 月から 12 月までの間に申請を受け付けする予定である。
▶ 全会一致で承認された。
- 2) 学会ガイドラインの整備計画
学術委員会の中にガイドライン委員会を設置し、日循をはじめ他学会との調整を図るこ

と、およびガイドラインの見直しを5カ年計画で整備する。新規ガイドラインの例として、(1) 移行医療支援ガイドライン(2) 小児画像診断の機器設定と読影のガイドライン(3) 遠隔画像診断のガイドライン(4) 小児における抗凝固療法に関するガイドライン(5) 先天性心疾患児に対する予防接種のガイドライン(6) ファロー四徴症(肺動脈閉鎖不全、肺動脈遺残狭窄)の内科的、外科的治療(7) 小児循環器医のための心移植に関するガイドラインを検討したい。

➤ 全会一致で承認された。

<編集委員会>白石理事

1) 英文誌の発刊について

Review Article を含めて年に2回は発行できる見込みで、2017年中に第1号を発行予定。また、学会発刊の教科書として、学校心臓検診のテキスト、小児循環器病のテキストの発刊を出版社と準備している。

➤ 全会一致で承認された。

<臨床試験委員会>三浦委員長

1) 臨床試験推進事業契約について

小児臨床試験事業推進のために、学会として治験促進のための支援事業を行う予定。契約書を締結して支援事業を推進したい。

➤ 全会一致で承認された。

2) 内保連への保険申請の準備状況

平成30年度の保険診療改定について12月10日まで項目を提出する。評議員にアンケート調査を行い、希望項目案を収集の上、調整する。2017年6月10日に厚労省へ提出が予定されている。

➤ 全会一致で承認された。

4. 報告事項

<学術集会報告>

1) 第52回学術集会報告：小川俊一会長

開催および開催準備に関し、理事・会員・運営に携わったスタッフに感謝している。学術集会プログラムを組む時に苦労したので、次回からはプログラム委員会の委員選出など、スタートを早めることも検討してほしい。

演題数は公募指定含め約900題あり、有料入場者数は約2000名であった。

- 2) 第 53 回学術集会進捗状況報告：坂本 喜三郎会長
53 回学会については 3 개국フォーラムも同時開催予定である。Asian Pacific Pediatric Cardiology Forum として開催する予定。

<各委員会報告>

- 1) 総務委員会 (富田理事)
1. 活動計画：Web site の update, 地方会新規募集など
 2. 会員動向：会員数 (2016 年 9 月 21 日時点)
正会員 (医師) 2413 名、正会員 (医師以外) 345 名 計 2,758 名
名誉会員 33 名、特別会員 61 名、賛助会員 4 社
 3. ホームページ更新に関して運用方法と運用規約について説明。
- 2) 学術委員会 (小山理事)
1. 活動計画：研究委員会・国際交流委員会に関する規約の制定、分科会における学術活動の支援、ガイドラインの整備、教育事業の推進、学術集会の支援、データベース委員会との連携
 2. AEPC・AHA 交換留学生制度 報告
○ AHA との交換留学：
松尾久実代先生 (大阪府立母子総合医療センター)
→Children's Healthcare of Atlanta へ派遣予定。
AHA からの派遣者受け入れ施設は国立循環器病センター (担当白石公先生) に決定。
○ AEPC との交換留学
松尾諭志先生 (宮城こども病院心臓血管外科) →L'hospital Necker, Paris, France
吉田修一朗先生 (中京病院) →Birmingham Children's Hospital Birmingham, UK
喜瀬広亮先生 (山梨大学) →Dept of Paediatrics, University of Padua, Italy
AEPC からの派遣者受け入れ施設は静岡県立子ども病院 (坂本喜三郎先生)、長野県立こども病院 (安河内聰先生)、岡山大学 (大月審一先生) に決定。
 3. AEPC2017 (Lyon) での AEPC-JSPCCS joint session
joint session のテーマと講演者について学術委員会で審議し次回理事会で報告予定。
 4. WCPCCS での AEPC との joint session テーマ
「Fallot 四徴症遠隔期の PR 治療戦略」と決定。JSPCCS からは坂本喜三郎先生、山岸正明先生、先崎秀明先生に講演依頼予定であり、今後 AEPC と協議して最終決定。Joint session 開催費用については AEPC と折半する。
 5. 下部委員会報告 (教育委員会) 鎌田委員長
分科会の教育セミナー・講演の統合について依頼文を作成。各分科会の学術集会の会

長に講演セミナーがあれば小循に協力できるよう学術集会マニュアルに入れる。

3) 専門医制度委員会（土井理事）

1. 第6期日本小児循環器学会専門医試験を準備している。
2. 新専門医制度に関する現状報告

日本専門医機構理事長から；新たな専門医制度の施行開始を1年間延期することが正式に決定。平成29年度は基本18領域については各学会の責任において施行することが決定。総合診療専門医と合わせた基本19領域の専門医の研修は平成30年4月に一斉スタートできることを目指す。プログラムや専門医認定は学会と新専門医制度機構が連携して構築する。

日循の専門医について；小児科も胸部外科も日本循環器学会の専門医を受験することが可能となった。

4) データベース委員会（三谷理事）

1. 活動計画：登録システムの整理、学会主催の疾患登録の継続調査の実務、登録業務の効率化、データの集計、2次利用の規定作成、学会HPへの報告システム作成。
2. 臨床効果データベース事業進捗状況について

小児科学会との委託契約を締結した。本学会の配布金は1000万円。評議員宛てに登録病名に対する意見募集中。

3. 実態調査システム構築委託選定と今後の作業工程について：9/22理事会後、担当Working groupでシステム構築候補3社のプレゼンテーションを行い業者決定予定。
4. 他学会などのデータベース連携、本学会のデータベース利用規程について今後作成予定。
5. 下部委員会報告（遺伝子疫学委員会；山岸敬幸委員長/形態登録委員会）

CHD実態調査の途中経過報告があった。CHD全部合わせると発生率は1.13%であり、これまでの数字を裏付けることができた。

5) 社会制度委員会（賀藤理事）

1. 活動計画：身体障害者診断書・特別児童扶養手当診断書記載内容の検討、難病指定、小児慢性疾患の新しい動きへの対応、移行医療の整備、男女共同参画ではワークライフバランスの在り方検討、学校心臓検診委員会・蘇生科学委員会は委員会活動を拡大する。
2. 小児慢性疾患、難病指定疾患制度について；第3次難病申請で13疾患を申請し8疾患が指定追加の方針となった。この中に先天性僧房弁狭窄症、先天性三尖弁狭窄症、先天性肺動脈狭窄症、先天性肺静脈狭窄症、左肺動脈右肺動脈起始症があった。
3. 学校心臓検診制度について、学校心臓検診ガイドライン報告

6) 学会雑誌編集委員会（白石理事）

1. 活動計画：英文雑誌発刊準備、総説シリーズ印刷書籍の発刊。

2. 雑誌発行報告
雑誌 32-4 まで発刊済。10 月下旬にニュースレター2016-3 号発刊予定。
3. 英文雑誌発行の準備状況
方針と投稿規定を会員へメール配信、学会 HP へ掲載した。
- 7) 医療安全委員会（鈴木理事）
 1. 医療安全外部委員依頼状況：これまで外部委員依頼が 2 件あった。
 2. 医療安全外部委員推薦規約・制度について
今の内規では対応しきれないため新しい内規を作成予定。
 - 外部委員依頼があった場合は、鈴木理事、理事長、副理事長、総務で決定し理事会に報告することになった。
- 8) 保険診療・臨床試験委員会（三浦委員長）
 1. 活動計画：平成 30 年度の診療報酬改定に向けた準備、未承認・適応外の薬品・機器など。
 2. 厚労省からのニトロプルシッド実態調査要請について
未承認薬の検討拡大を未承認薬等検討会議に対して要望していたところ、カンデサルタンと同様に調査するように厚労省から指示があった。本調査計画案は提出したが厚労省からは未返答である。
- 9) 臓器移植委員会（福寫委員長代理市川理事）
 1. 活動計画：移植患者の予後調査、移植医療推進活動、小児心臓移植施設・VAD 施設の体制整備。
 2. 重症心不全相談窓口制度の現状報告：2015 年 10 月から 2016 年 9 月までに 7 件（うち 2 件は Berlin Heart 装着）
 3. 小児医療施設ドナー提供準備状況に関するアンケート調査：近日中に案を作成、WEB 回答のアンケートを実施する。
- 10) 倫理委員会（山岸敬理事）
 1. 倫理委員会審議結果
胎児治療に関する倫理審査申請（国立成育医療研究センター：左合治彦先生）の継続審議中。
- 11) 利益相反委員会（野村理事）
 1. 活動計画：適切な COI マネージメントを実施する。
 2. Q&A について：学会 HP の利益相反のページに Q&A を掲載した。
 3. COI のスライドについて：発表者全員の氏名を書くように変更する予定。

5. その他

1. 学会後援依頼 (山岸敬理事)

TAKAO Symposium2017 (2017年10月6日～8日、くにびきメッセ国際会議場・中西敏雄会長) および Weinstein Cardiovascular Development and Regeneration Conference2018 (2018年5月16日～18日、奈良春日野フォーラム) (山岸敬幸・白石公会長)

➤ 全会一致で承認された。

2. 個人情報保護法案について (賀藤理事)

10月に倫理指針に関するパブリックコメントが出される。内容について学会としての対応が必要。

問題点：

- ・パブリックコメントは研究に対して非常に厳しいものになる可能性もある。
 - ・症例報告すらダメになる可能性がある。
 - ・総務省と内閣府が主導権を持っているので、厚労省に言っても問題は解決しない。
 - ・これに対するには学会としてパブリックコメントを出す必要がある。
- パブリックコメントを出す方針で検討する。

6. 閉会

以上をもって本日の議事を終了し、議長から議事への協力に謝辞があり、閉会した。

以上の議事の経過および結果を明らかにするため、この議事録を作成し議長並びに議事録署名人がこれに押印する。

2016年9月22日

議 長 安河内 聡

議事録署名人 富田 英

議事録署名人 土井 庄三郎

(以下余白)